

## トマト授粉用マルハナバチ使用優良事例

現在、国内でトマト授粉用に使用されているマルハナバチについては、その大半が外来種となっており、ハウス外に飛散し野生化することによって、動植物の生態系に影響を及ぼす危険性があるということで社会問題となっております。

マルハナバチを使用する際には、ネットを展張し野外にハチが飛散しないような取扱をすることが義務付けられております。

そこで、マルハナバチ使用の優良事例として、恵庭市内でミニトマトを栽培している宮田寛さんの事例を紹介します。

宮田さんは、授粉用に8年前よりマルハナバチを導入しております。一昨年までは、240㎡のハウス6棟個々に巣箱を設けておりました。

ハチの寿命が2ヶ月程度なので、ハウス1棟に対し年間2箱のハチを使用しており、毎年で12箱のマルハナバチを購入する必要がありました。また、夏場はハウス内の換気のために側面を開放するためハチがハウス外に逃げ出すこともありました。

そこで、昨年よりハウスの巻上げ部分に全てネットを展張し、さらに3棟ずつ入り口を共通空間で接続した回廊を設けました。それに伴い、ハチを3棟に1箱の使用に減らしたところ、従前以上の授粉効果を得ることができました。

このことによって、年間のハチの使用量は12箱から4箱に減少しコストが低減されただけでなく、収量と作物の品質の向上にも繋がる結果となりました。

### ハウス改造によるメリット

- (1) 回廊の接続によりハチの巣箱が3棟兼用で使用できコスト低減となる。
- (2) ハチがハウス外に飛散することがないため、受粉効率があがる。
- (3) ハチがハウス外に飛散することがないということで、環境に配慮している。
- (4) ハチが広い空間を飛びまわれるためストレスが減り、安定した寿命での使用が期待できる。
- (5) ネット展張により大型害虫の侵入を防ぐことができる。

## 回廊の構造（骨組み）



※) 回廊の骨組みには豆栽培用の支柱を使用している。(口径15～16mmのパイプをU字に曲げ加工したもの)

## 回廊の完成写真



ネット展張部分（4 mm目合いのネットを使用）

